

ピアノ学習への意欲が向上する指導法について ～ 1 年次前期の取り組みから～

平松 愛子

Teaching Method on Advance Volition to Learn Playing Piano ～ A Class of the First Semester ～

Aiko Hiramatsu

Abstract

I have taught music in nursery education course at Kyusyu Junior College of Kinki University. In the course, I have focused on how students can develop piano skills, utilize them in the future, and love learning piano more. In addition, through my piano class, I want my students to enjoy music more and have great enthusiasms to learn others.

The purpose of this study is to develop my teaching methods.

In my piano class, I have used new teaching materials which I made for students since 2011. This is just the begining, so I'd like to develop more. This report is based on freshman's progress in my piano class.

Key word : piano, volition, teaching method

はじめに

筆者は、勤務している近畿大学九州短期大学の保育科において、音楽の専任講師として音楽系の様々な授業を担当している。中でも特にピアノの授業に関して、学生がピアノを弾く技術を身につけるだけでなく、実習や実際の保育現場で通用する応用力も身につけ、ピアノ学習への意欲がより向上していく指導をめざしている。さらに、ピアノの技術や応用力、学習意欲の向上だけでなく、音楽を楽しむ心や、その他のことにも前向きに取り組もうとする意欲が増す指導法を探したいと考えている。

筆者は、平成 19 年度より専任教員としてピアノの指導にあたってきた。この 4 年間、授業内容と指導法において試行錯誤を繰り返してきた。しかしながら、これまでなかなか成果が出せずにいた。そこで、平成 23 年度からの授業より、新たに作成した教材をピアノ学習に取り入れ、新たな指導を試みた。この取り組みは、今後継続しておこなっていく予定であり、現在

もなお進行中である。

本稿は、これら新教材を用いた学習法、指導法を通して、学生がどのように変化したかを調査し、考察をおこなったものである。

第1稿目である本稿の内容は、以下の通りである。

第1章では研究の目的、対象、期間を記す。第2章では音楽に関する入学時の状況など、学生の状況を把握する。第3章では、ピアノ授業のカリキュラムや指導形態等の指導する側の状況を記すとともに問題点を明らかにし、これを打開すべく新たな指導に向けて指導の目標を再確認した後、新たな教材や課題曲について触れる。続く第4章では、新たな指導とその取り組みについて記し、学生の視点からも述べる。第5章ではこれらの取り組みから考察を試み、今後の課題を述べる。

1. 研究の概略

(1) 研究目的

執筆者は、本学の保育科の学生が、

- ①ピアノを弾く技術を身につける
- ②実際の教育・保育現場で通用する応用力を身につける
- ③ピアノ学習への意欲が増す
- ④音楽を楽しむ心がふくらむ
- ⑤その他のことにも前向きに取り組もうとする意欲が増す

これらの目標を総合的に向上させたいと考えている。そのためにはどのような学習内容が必要であるか、それらをどのように指導することが望ましいか、また授業としてどのように展開していけばよいかについて探すことが本研究の目的である。

(2) 対象

本学保育科平成23年度入学生（現在1年次生）71名を対象とする。

(3) 期間

本研究をおこなうにあたり、対象者が入学してから卒業するまでの2年間を以下のように4つの期に分類する。

第Ⅰ期：入学～1年次前期授業終了まで

＝平成23年4月13日～7月17日

第Ⅱ期：夏休み期間及び1年次後期授業終了まで（冬休み期間中を含む）

＝平成23年7月18日～平成24年1月下旬（予定）

第Ⅲ期：春休み期間中～2年次前期授業終了まで

＝平成24年2月上旬～7月中旬（予定）

第Ⅳ期：夏休み期間及び2年次後期授業終了まで（冬休み期間中を含む）

=平成 24 年 7 月下旬～平成 25 年 1 月下旬（予定）

なお、本稿の対象期間は、平成 23 年 4 月 13 日～7 月 17 日までである第 I 期である。

2. 学生の状況

学生の入学時の状況は、以下の①②に記す 2 とおりの調査結果から述べるものとする。① a) より、新入生の約 4 割は、ピアノのレッスン経験が一度もないことがわかり、②より経験ありと答えた者の多くも初級程度であることがわかった。読譜に関してもきちんと読める者は稀であり、少し読める者や全く読めない者が圧倒的に多い。これらのことから、入学生の大半が初級者^{※1}の状態であるということが出来る。また、入学後の現在も個人的に外部講師に習っている学生は全体の約 1 割であり、残りの約 9 割の学生は、授業の時間以外はすべて自習によるピアノ学習をおこなっているという事がわかった。

①入学前のアンケート調査の結果をもとに

毎年音楽科目の授業を進めるにあたって、学生の状況を把握するため、1 年次生全員を対象に、入学前にアンケート調査をおこなっている。この調査は、本学入学までのピアノレッスン経験の有無およびその経験年数、部活動などの音楽経験、さらに読譜力やピアノを学習への意識、意欲等について尋ねているものである。平成 23 年度の結果は以下の通りである。

a) ピアノレッスン経験の有無と経験年数の内訳等について（71 人中）

- ・ピアノ経験なし 29 人 (40.8 %)
- ・ピアノ経験あり 42 人 (59.2 %)
 - 1 年未満 4 人 (5.6 %)
 - 1 ～ 2 年 4 人 (5.6 %)
 - 2 ～ 3 年 5 人 (7.0 %)
 - 3 ～ 4 年 3 人 (4.2 %)
 - 4 ～ 7 年 8 人 (11.3 %)
 - 7 ～ 10 年 9 人 (12.7 %)
 - 10 年以上 9 人 (12.7 %)
- ・入学後も外部講師によるレッスンを継続しているか
 - 継続している 7 人 (9.9 %)
 - 入学前にやめた 35 人 (49.3 %)

b) 小中高校時代に音楽系の部活に所属した経験があるか（71 人中）

- ・所属していた 13 人 (18.3 %)
- ・所属してない 58 人 (81.7 %)

c) 入学時の読譜力に関する自己意識について（71 人中）

- ・読めると思う 21 人 (29.6 %)
- ・少しなら読めると思う 33 人 (46.5 %)

- ・全く読めないと思う 17 人 (23.9 %)

d) ピアノを学習することに向けての意識について

- ・前向き、非常にやる気をもって学習に臨む 42 人 (59.2 %)
- ・弾けるようになるか強い不安である 31 人 (43.7 %)
- ・頑張ればなんとかなると楽観視している 25 人 (35.2 %)
- ・資格、免許取得のためピアノ学習は仕方ない 18 人 (25.4 %)

②平成 23 年度、入学後のピアノ実技の調査結果をもとに

毎年、音楽 I（＝声楽・楽典の授業＝卒業必修のため 1 年次生全員受講）の第 1 回目の授業の際、①の入学前のアンケートの結果と実際の学生の姿を照らし合わせるために、読譜テストを実施し、一人ずつ全員にピアノを弾いてもらっている。この実技試験をおこなう理由は、①のアンケートはある問題点（＝自己申告が故の自己過大・自己過小評価）を含んでいるからである。このことは今後見直さねばならない課題である。

この実技調査によって、ピアノレッスンの経験があると答えていた者、未経験と答えた者、部活動経験者、全くの音楽未経験者が実際にはどのくらい弾けてどのくらい弾けないのかのを知ることができる。このため、ピアノ授業での学生のクラス分けの参考にもなっている。

今年度は以下のような結果となったが、この結果は筆者が調査を始めて以来毎年ほぼ同じものである。

○ピアノレッスン未経験者について

- ・小学校時代に音楽の授業で習ったであろうにもかかわらず、「トン記号※ 1？って何？」という者や、ドの位置が分からない者が殆どである。
 - ・ドレミファソラシドの階名の順番が分からない者もいる。
- また、上行形はかろうじて言えても、下行系のドシラソファミレドが言えない者が多い。

○ピアノレッスン経験者について

- ・読譜に関して、「読めると思う」と答えた学生の中には、「五線を数えながらであれば読める」、「ト音譜表なら読める」状態の学生が意外に多い。（一般的に「少しなら読める」に回答するべきであろうと筆者は感じているのである）
- ・音高は読めてもリズムがわからない学生が多い。
- ・長年習った者の中には、今もなお毎回先生に手本を弾いてもらい、それを真似しながら弾くというレッスン形態で学んでいるため、自分で楽譜を読んで弾くことができない者もいる。このような学生は、指番号を意識した運指や、響きが濁らないようにペダルを踏むことできていないことが多い。
- ・筆者ら教員から見て、「ピアノ経験者」といえるであろう学生は毎年 6～7 人である。

以上①②の調査より、本学に入学してくる学生の大半は、ピアノ学習において初級者の状態であるといえることができる。

3. 指導する側の状況と新たな指導に向けて

(1) カリキュラムおよび指導の形態について

本学保育科のピアノ授業科目は次の2科目である。

①ピアノⅠ：ピアノ基礎（弾き歌いを含む）、1年次通年。

②ピアノⅡ：ピアノ応用（弾き歌いを含む）、2年次通年。

ピアノⅠ、ピアノⅡ両科目とも保育士選択科目となっており、ピアノⅠは1年次生全員、ピアノⅡは2年次生のほぼ全員が受講している。

それぞれの科目を1コマにつき専任教員2名と非常勤講師4名の計6名で担当し、個人レッスンの形態をとっている。

(2) これまでの指導に対する問題点

筆者ら保育士養成校のピアノ指導教員は、学生一人ひとりに対し、卒業するまでの2年間に「ピアノを弾く」ための基礎的な技術を身に付けさせ、「弾きながら歌う」ことができるよう指導することが任務である。さらに、学生の弾き歌いや伴奏を「保育における表現技術の一つとして『使える』」、さらに「音楽を楽しむ」までに成長させなければならない。

しかしながら、これまで本学保育科の学生の多くは、ピアノ学習に対して、指番号を守って、強弱をつけて、ミスタッチの無いように、途中で止まらないように、与えられた課題を「こなす」ことに必死になっており、卒業を迎えるまでに、上記した「保育における表現技術の一つとして『使える』」、さらに「音楽を楽しむ」に至っていないように感じられる。学生は「ピアノを弾く」という表面的な行為に意識が集中してしまっているのである。実際のところ、指導する側である筆者ら教員自身も、いつしか限られたコマ数の中で学生に多くの課題曲を弾かせることに必死になり、与えた課題を「とりあえず弾ける」状態になれば、よしとしてきた場合もあったのではないと思う。学生を「保育における表現技術の一つとして『使える』」、「音楽を楽しむ」ようにするという目標が薄れてしまっている場合もあったのである。筆者は、双方がただ単位を取るためだけの、採用試験に合格するためだけの、技術向上ということだけを重視した、いわば義務的なピアノ学習になっていると感じている。

(3) ピアノ指導の目標

保育所保育指針の改定に伴い、保育士養成課程のカリキュラムが改正された。これにより保育士養成科目「基礎技能」は「保育の表現技術」に名称が変更され、「ピアノ」は、基礎技能の一つではなく、保育の表現技術の一つとすることになった。これを踏まえた上で、筆者は2年間のピアノ学習の目標について、先述した内容に加え、具体的に以下の7点を学習の目標とした。

- ① ピアノを弾くこと、歌うこと、音楽することが楽しいと感じるようになる。
- ② 学生自ら、それぞれの曲が持つ音楽を感じることができるようになる。
- ③ 練習する目的は、思い描いた音楽を自由に表現するためであるという旨を学生自身が強く認識する。
- ④ たとえ知らない曲でも、譜面を読んで音にして、音楽にすることがおもしろいと感じるようになる。
- ⑤ 譜面が技術的に難しい場合には、簡易伴奏に変えることができるようになるなどの応用力を身に付ける。
- ⑥ 実習先や就職先において、子どもの生き生きとした息遣いを感じながら、子どもの自由な表現を導き出すことのできるピアノ伴奏、さらに弾き歌いができるようになる。
- ⑦ ピアノ学習に取り組むことを通して、他の物事に対しても前向きにやる気を持てるようになる。

ト音記号やドの位置すら分からない状態で入学してきた学生にとって、以上の7項目すべてを2年間で達成するのは容易なことではない。しかし、少しずつ前進するための第一歩として、筆者はこれまでの学習教材、課題曲について見直すことが必要だと考えた。

(4) 使用教材および課題曲

(2) で述べた問題点を踏まえて (3) に記した目標により近づくために使用する学習教材及び、課題曲を大幅に見直し、平成23年度より実行した。前年度に引き続き使用している教材もあるため、今年度から新たに取り入れた教材には※を加える。

○使用教材

- ※「小学校教諭・保育者をめざす子どもの表現活動に役立つピアノテクニク」 圭文社
- 「こどものうた200」 チャイルド本社
- 「ポケットいっぱいのおうた200」 教育芸術社
- ※作成したプリント教材
- 附属幼稚園実習で使用する楽譜

○課題曲

ピアノⅠ（1年次通年60コマ）で課する課題曲は以下の通りである。

※◎ピアノテクニク（9曲）

※◎プリント練習譜（以下20曲）

- ハ長調：右手指くぐり、左手コード奏、メリーさんの羊、かえるの合唱、ぶんぶんぶん
- ヘ長調：右手指くぐり、左手コード奏、メリーさんの羊、かえるの合唱、ぶんぶんぶん
- ト長調：右手指くぐり、左手コード奏、メリーさんの羊、かえるの合唱、ぶんぶんぶん
- ニ長調：右手指くぐり、左手コード奏、メリーさんの羊、かえるの合唱、ぶんぶんぶん

※◎右手のリズム練習

◎附属幼稚園でよく歌う季節の歌（13 曲）

ちょうちょう、チューリップ、こいのぼり、ことりのうた、とけいのうた、
あめふりくまのこ、たなばたさま、みずあそび、とんぼのめがね、どんぐりころころ、
まつぼっくり、やきいもグーチーパー、あわてんぼうのサンタクロース

◎附属幼稚園実習曲（7 曲）

おはよう、楽しい園、なかよし幼稚園、
おとうばん、おべんとう、おむねをはりましょう、おねむりのうた

ピアノⅡ（2 年次通年 60 コマ）で課する課題曲は、現時点では未定である。

続く第 4 章では、作成した新たな教材にとその指導について説明する。

4. 新たな指導とその取り組みについて

（1）新たな指導内容について

本学保育科でおこなってきたこれまでのピアノ学習法のように、楽譜を見てその通りに弾く学習法に加え、和音やメロディーを弾くための基礎的な手指の形や、耳や感覚を使った学習法も取り入れ指導に取り組んだ。

長時間の自習で「やる気」を継続していくためには、学生自身がより取り組みやすいと感じる教材で学ぶことが必要であると考えた。そのため筆者は、本学保育科の学生に適した極めて基礎的な教材を新たに作成し、従来使用しているテキストに加えて指導に取り組むことにした。今回新たに作成した教材のうち、学生が 1 年次前期の間に取り組んだ内容は以下の 5 項目である。（楽譜は巻末に記載する）

- ①「右手指くぐりの練習」
- ②「左手のコード奏」
- ③「移調奏（メリーさんのひつじ、かえるの合唱、ぶんぶんぶん）」
- ④「右手のリズム練習」
- ⑤「伴奏パターン表」

※①②③については、それぞれハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調で取り組む。

（2）第Ⅰ期の取り組みを終えて（学生の視点から）

1 年次前期まとめの試験期間中におこなったピアノ実技試験の際に、1 年次生全員に対し、前期での課題の取り組みに関するアンケート調査をおこなった。以下は学生からの回答をまとめたものである。（自由記述）

①「右手指くぐりの練習」について

- ・これからたくさんの曲を弾くと思うが、この練習はきっと役に立つと思う。
- ・2、3人で同時に弾くと、指や音を間違えないように止まらないように迷惑かけないようハラハラするけど、楽しい。
- ・楽しみながらいつの間にか上達した気がする。「指をくぐらせる」とか、いちいち意識せずに弾けるようになった。
- ・指をくぐらせたり返したり（特に1-4指）が最初はとても難しかったが、繰り返し練習するうちに難しくなくなった。今後難しいところが出てきてははじめは弾けなくても、繰り返し練習すれば弾けるようになると思うので自信になった。

②「左手のコード奏（ハ、ヘ、ト、二長調）」の練習について

- ・主要和音（Ⅰ度、Ⅳ度、Ⅴ度、属七）を、左手の形や響きの違いで覚えて弾けるようになった。
- ・何度も繰り返し練習すると、弾きたい和音の鍵盤に自然に指が行くようになった。
- ・基本的な手の形が分かるようになってきたので、調号が付いていても難しいとは思わなくなった。
- ・この和音はメロディーと合う、合わないが少し分かるようになってきたと思う。
- ・この練習プリントは片手で弾くし、数種類の伴奏パターンを練習するため左手に意識が集中する。最初の頃はとても動かしにくかった左手だが、今は動かしやすくなった。

③「移調奏（メリーさんのひつじ、かえるの合唱、ぶんぶんぶん）」について

- ・昔から知っている曲だし簡単で短いので取り組みやすい。
- ・左手のコード奏の練習とセットで練習するとやりやすい。
- ・伴奏のパターンを変えても思ったよりすぐに弾けた。
- ・同じ曲を違う調で弾くことは、パズルゲームをしているような気分になって楽しい。弾けたとき達成感がある。

④「右手のリズム練習」について

- ・ずっとドレミファソファミレドの繰り返しで面白くないけど、音が単純な分、リズムは練習しやすいと思った。
- ・地味に難しいし、正直一番やりがいのない練習だと思ったけど、附属幼稚園の実習曲に出てくるリズムがすべて載っていると聞いて、がぜんやる気が出た。
- ・楽譜は簡単そうに見えるのにリズムオンチの私には難しかった。3連音符の時は「タタタ」と言うより、「タナカ」や「タケダ」などの3文字の名字を唱えるとやり易いよと教えてもらったらビックリ弾けた。他の子にも教えてあげたらすぐ弾けるようになったし、こういう発見も楽しい。

◎全体を通して

- ・初心者の人たちにはちょうどいいかもしれないが、前からピアノをやっている人にとっては当たり前に弾ける内容なので、物足りないということもあった。
- ・教え合いで初心者の友人に教えることを初めて経験した。自分で弾くのととは全然違って、自分で弾くより難しかったけど、本当に勉強になった。
- ・バイトで弾けない時があって、気が付いたら周りのみんながすごい上手くなっていた。追いつきたいので絶対頑張る。
- ・毎日コード奏と指くぐりと移調奏を弾かないと調子が出ない気がする。日課になっている。
- ・ほぼ毎日練習した。初心者から始めたけど、周りがびっくりするくらい弾けるようになりたい。
- ・はじめは弾けるようになるか不安だったけど、楽しいと思うことの方が強くなった。ピアノを練習することに慣れてきた気がする。
- ・みんなは順調に上手になっていっているけど、私は全然弾けない。音符もいまだに読めるようにならないし、リズムも全くわからない。先生は熱心に教えてくださるのに、全然弾けるようにならない。どうすればよいかわからない。
- ・頑張っている（と思う）けれど、弾けようにならない。私の努力が足りないのだろうか。
- ・レッスンの時、先生の説明はわかりやすくてその時は分かるようになるけど、家に帰って練習しているとまた分からなくなってしまう。いつもその繰り返しなのでとても情けないし悔しい。周りの友達と差が開いてきていると思うし、自分だけ取り残された感がある。

5. 考察と今後の課題

ピアノ実技試験においては、極度に緊張している様子であり、普段の実力が出せない者が多かったと感じた。これは毎年試験のたびに同じことが云える。

筆者は、普段のレッスンの様子や個々の練習風景を見てきて、「弾ける」、もしくは「弾けるようになった」学生と、「そうでない」、「そうならなかった」学生との間には、単にやる気の度合いが低かったり、また練習量が少なかったりという原因以外に、大きな原因があるのではないかと感じた。

なかなか弾けるようにならなかった伸び悩んだ学生たちは、

- ・両手の指先に指令が伝わりにくい
- ・リズムやメロディーをのみこむことが困難
- ・何度も同じ個所で躓くなど、集中していない、もしくは注意力に欠ける
- ・どうせ自分は弾けないという諦めの感情が強い

という点が共通していると感じた。このような学生にとって、両手指を思い通りに動かすこと、弾きながら同時に歌うこと、読譜をすること、他人の前で弾くこと、また、なかなか上達する

兆しが見えない中で根気強く習慣的に反復練習をおこなうこと、これらは想像以上に難しいのではない。個々の状態に合わせた今後の指導を工夫していかなければならないと感じた。

一方、ゆっくりではあるが順調に上達した学生においては、ピアノに向かう姿勢に「やる気」と「劣等意識・苦手意識」が混在しているように感じた。特に入学してからピアノの学習を始めた学生にはその傾向が強いようであった。前者のような後ろ向きの感情は少ないが、今ひとつ意欲に欠けると感じた。さらにやる気を伸ばす指導法を探すことが必要である。

意欲的に練習を重ね上達の速い学生に対しては、これまで以上に、「技術」、「学ぶ意欲」がともに発展するよう、且つ目標に近づくよう指導していきたい。また、教え合いをすることも大切であるため、上達の度合いが違っても学び合っていくことを今後の学習の中に取り入れていきたいと考える。

まとめにかえて

第Ⅰ期は、幼児の曲を弾くための基礎習得に徹した。今後はこれをどのように発展させ、応用に結び付けていくか、さらに学生個々に合わせたやる気と能力をさらに伸ばす方法を考えていきたい。また、これまで以上に本学の他の音楽系授業※2の内容との連携を図りながら学生への指導法を検討していかなければならないと感じた。

目標を達成するために、作成した教材がどのように役立っていくのか、より指導内容と教材に工夫を重ね、今後検証していきたいと考える。

～注釈～

※1 ここではピアノを習った経験がない者、入学が決まって習い始めた者、習ったことはあるが幼少期及び小学校低学年までで止めた者を指す。また、習った経験の有無に関わらず、初歩的なト音譜表及びリズムについて理解していない者を指す。

※2 「保育の表現技術」の授業：

《音楽Ⅰ》声楽及び楽典、《実技演奏》ピアノ以外の器楽演奏（弦、管、ハンドチャイム、ギター、電子オルガンの中から1つを選択）、《音楽Ⅱ》音楽あそび及び簡易楽器を使った合奏

「保育の内容・方法に関する科目」の授業：

《表現Ⅱ》表現音楽（手あそび・歌あそびなど）、《表現Ⅲ》オペレッタ公演

考資料 ～作成したピアノ教材～

① 「右手指くぐりの練習」

※それぞれハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調で取り組む。

平成23年度:ピアノI

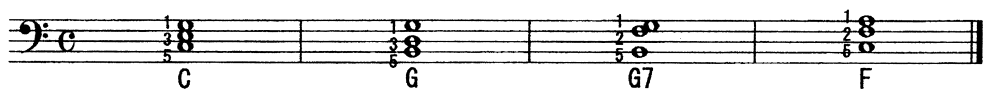
右手 指くぐり練習(ハ長調・C)

The exercise consists of eight staves of music in C major, C major (C). Each staff contains a sequence of notes with finger numbers (1-5) written above them. The patterns involve crossing fingers to create specific intervals and scales. Some staves include slurs and accents to indicate phrasing and dynamics. The exercise is designed to improve finger dexterity and control in the right hand.

② 「左手のコード奏」 ※それぞれハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調で取り組む。

平成23年度：ピアノⅠ

左手のコード奏(C:ハ長調)



⑤

Chords: C, C, G, C, C, C, G⁷, C, F, C, G, C, F, C, G, G⁷, C

⑥

Chords: C, C, G, C, C, C, G⁷, C, F, C, G, C, F, C, G, G⁷, C

⑦

Chords: C, C, G, C, C, C, G⁷, C, F, C, G, C, F, C, G, G⁷, C

③「移調奏（メリーさんのひつじ、かえるの合唱、ぶんぶんぶん）」

※それぞれハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調で取り組む。

平成23年度:ピアノI

ハ長調:C

♪メリーさんのひつじ

♪かえるの合唱

♪ぶんぶんぶん

④ 「右手のリズム練習」

平成23年度:ピアノⅠ

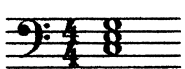
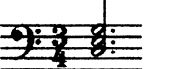
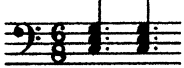
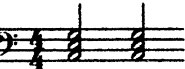
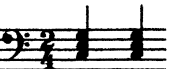
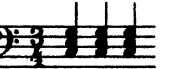
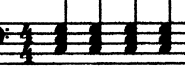
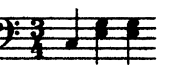
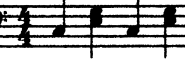
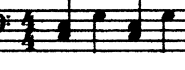
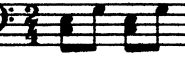
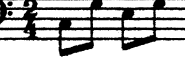
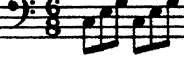
右手 5指でリズム練習

The musical score is written on a single staff in treble clef with a common time signature (C). It consists of eight measures. The first measure is marked with a 'C' above the staff. The second measure is marked with a 'G' above the staff. The third measure is marked with a 'C' above the staff. The fourth measure is marked with an 'F' above the staff. The fifth measure is marked with a 'G7' above the staff. The score features a variety of rhythmic patterns, including eighth notes, quarter notes, and eighth rests. The final measure is marked with a 'C' above the staff and ends with a double bar line.

⑤ 「伴奏パターン表」

平成 23 年度:ピアノ I

伴奏パターン表

	4 分の 4 拍子 (4/4)	4 分の 2 拍子 (2/4)	4 分の 3 拍子 (3/4)	8 分の 6 拍子 (6/8)
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧	